小平市立上宿小学校 CSだより
学校経営協議会だより
令和４年度No.4
令和４年 ７月 １日
会長 羽根田 厚子
校長 内 藤 章

「上宿フェスティバル」の様子

６月１１日（土）は、３年ぶりとなる「上宿フェスティバル」でした。感染症対策を行いながらの開催でしたが、子どもたちは工夫して自分たちのお店をつくり上げていました。一生懸命にお客さんを呼ぶ声を聞いて、子どもたちはこのような行事を待ち遠しく思っていたのだなと、しみじみと感じました。

さて、６月１１日に行いました、第３回学校経営協議会で話し合ったことについてお知らせいたします。

子どもたちのために、地域で、学校でできることは。

上宿小CSのプロジェクト・チームは、先生方にもメンバーに加わっていただいています。今回の会議には、多くの先生方にも参加していただき、委員と一緒に「子どもたちのために、これがしたい」ということを出し合いました。

広げよう。学びの輪。PJ	育てよう。心の芽。PJ	みんなで協力。助け合おう。PJ
・学校での読書の取組例について情報共有 ・家庭でも本に親しめるような工夫をしたい。 ・「お話の森」について	・あいさつDAYを盛り上げたい。メールで知らせ、地域・保護者も協力したらどうか。 ・放課後、学校のボールを使いたい。 ・ニコニコの庭、裸足で入ってもよい日をつくりたい。	・「助け合おう」という言葉から、保護者同士のつながりがイメージされる。保護者同士の距離をもっと近くしたい。

CS子育てリレーコラム

育む HAGUKUMU

第５回：上宿小学校 主幹教諭 平尾 和嗣

「家庭教育の大切さ」

教職に就き、約２０年。独身時代から結婚を経て、今では小学生２人と保育園児１人の３児の父として、日々、仕事に家事に追われる日々を送っています。お迎えの日は、１７時に学校を出て、１８時にお迎えを済ませ家に帰り、ご飯を作って食べさせ、宿題を見て、お風呂に入れ、歯磨きなどその他諸々を終えて２１時までに寝かしつける日々を送っています。

今回、このＣＳだよりに寄稿するにあたり、自分が子どもをもち、改めて気付かされた「家庭教育の大切さ」についてお伝えしたいなと思い、教員の立場と小学生の子をもつ親としての立場を踏まえて書かせていただこうと思います。

普段、子どもが帰ってきて、宿題のチェックをするのですが、漢字や計算の間違い、音読では読み間違いや読めない漢字の有無などにすぐに気付くことができ、教えてあげることができます。一方、学校では、机間指導していても、子どもの回答した問題すべてに目を通したり、音読で本文を一人が全部読んだりすることはなかなかできません。「一人一人落ち着いて子どもの様子を見て、教えてあげることができる」最高の時間と場所がまさに家庭なのだと、自分の子どもと接していて強く感じました。そうは言っても、毎日、子どもたちと向き合って勉強を見るのは大変ですよね・・・・。うちでも、お菓子やゲームで釣ってやる気を出させたり、直しをしたくないと泣き叫ぶ子どもと日々バトルしたりしています・・・・。それも、自分の子どもと向き合うには大事な時間だと思い、過ごしています。

子どもの学年が上がるにつれ、担任の先生は変わっていきますが、親はずっと自分の子どもの親です。そのことを自覚し、きちんと見てあげる必要があるのだなと親になって改めて感じ、「家庭教育の大切さ」を日々、実感しています。そして、教師としても子どもたちの成長のためにこれからもできる限りがんばっていきたいと思います。